

令和7年度学校教育自己診断（生徒用）

令和7年度学校教育自己診断（生徒用）			R7年度		R6	R5
			肯定率		肯定率	肯定率
1	入学前、本校について十分調べて受験した。		58%		58%	56%
	4年	保護者と生徒で開きがある。理由を追求する必要がある。				
2	受験は、自分の意思で決めた。		87%		87%	84%
	2年	2学年は95％が自分の意志で決めており、これが登校率が高いことに繋がっていると考える。				
3	学校に行くのは楽しい。		71%		71%	73%
	1年	1年は2人担任制で、生徒の学校生活をサポートしており、生徒が学校に来やすい雰囲気づくりができていていると感じる。				
	生指	生徒が学校を安全で安心できる場と感じている。人間関係やわかりやすい授業、参加しやすい行事、教員との信頼関係が関係していると考えられる。				
4	学校のコース選択や単位修得、選択科目、履修などのガイダンス（説明）はわかりやすい。		84%		84%	89%
	1年	昨年度より5％減ったが誤差の範囲と考える。学期ごとにHRで進級指導を行い、丁寧にガイダンスをしている。				
	教務	例年と変わらない説明を行っている。母数の変化による減少と思われる。				
5	学校の授業は、プリント、スライド、映像等の補助教材を使うなどの工夫をしている。		91%		91%	96%
	教務	多くの授業で補助教材が使用されている。母数の変化による減少ではないか				
	情報処理	母数の変化による減少か。				
6	学校の授業の内容に、ついていける。		84%		84%	86%
7	学校の授業の説明はわかりやすい。		91%		91%	94%
	教務	授業見学の機会もあって、91％と高水準を維持できている。				
8	学校の授業中は、落ち着いて学習しやすい。		69%		69%	82%
	1年	昨年度より13％減った。クラス間での差はあるが、特定の生徒による授業態度によって雰囲気が悪くなっている。				
	2年	学年として、平均よりも数値が下回ってしまっている。巡回等を通して、授業を受けやすい環境作りに努めていきたい。				
	3年	3学年としては全体的に落ち着いて授業を受けている様子である。				
	4年	昨年度より減っている。授業等での規律を学校で決められているが、実践できていない部分も見られる。				
	生指	授業が比較的落ち着き、学びやすい環境であることを示しているが、集中しにくさを感じている生徒も一定数いるため、教員間でルール統一・個別支援・授業改善などが今後の課題となる。				
	生徒支援	一部の生徒の私語が目立っている。学校全体で対応していく。				
9	ゼロ時限目の授業を知っている。		80%		80%	75%
	1年	入学後から何度も案内した。				
	教務	進級や卒業に向けて単位を意識する生徒が増えたことが要因か				
10	土曜講座を知っている。		76%		76%	72%
	1年	入学後から何度も案内した結果と考える。				
	教務	進級や卒業に向けて単位を意識する生徒が増えたことが要因か				
11	ゼロ時限目の授業を受けてみたいと思う。		26%		26%	28%
	1年	1年は最初の希望者が多いが続かない生徒がいるのが現状である。				
	4年	そもそも学校自体がゼロ時限を受けるように促進していないので、この数値を上げるのであれば、ゼロ限を推奨する動きを作るべきである。個人的には受けたい生徒が受ければいいと思っているので、				
	教務	受講生は昨年度より増加している。母数の変化による減少か。				
12	土曜講座を受けてみたいと思う。		25%		25%	24%
	1年	1年生にはまだ土曜日まで活動する余裕がないかもしれない。				
	4年	ゼロ限と同じ				
	教務	受講生は昨年度より増加している。母数の変化による減少か。				
13	生徒の興味や関心、希望する進路に応じて選べる科目がある。		75%		75%	83%
	2年	選択科目については1/30に説明				
	3年	生徒の進路は様々なので、それぞれの希望する進路に応じた科目設定は難しいと感じる。				
	教務	人数の関係で第2希望や第3希望となった生徒もいる。2年かけて希望の科目が選べるように進めていく。				
14	学校は、奨学金制度についてきちんと説明している。		83%		83%	83%
	1年	案内があればHRなどで連絡している。				
	進路	年度初めに各説明を終え個別相談に応じている。予約奨学金については7月中頃のPC入力を全員一斉に行えるよう徹底指導している。今後も多くの人に制度を理解してもらいたい。				
15	ホームルームなどで、自分の将来について考える機会がある。		87%		87%	83%
	1年	進路HRを定期的に行い、卒業後の進路について考える機会を設けている。				
	2年	2学年だけでなく、学校全体として総合探究なども活用しながら取り組んでいる。				
	3年	3学年では進路HRや総合探究の時間を利用して進路についての意識付けを積極的に行った。				
	進路	進路HRとして年2回、各学年テーマ別を実施している。また、全学年では秋の進路ガイダンスで職業について考える機会を設けている。今後も発展継続していきたい。				
16	学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる。		88%		88%	95%
	1年	昨年度より7％減ったが高い数値を保っている。進路HRを定期的に行い、卒業後の進路について考える機会を設けている。				
	3年	進路HRや総合探究の時間を利用して、必要な情報を伝えていく。				
	進路	R6年度より肯定的意見が減少したが、各種の学校見学会や企業説明会の案内の方法、進路通信の定期発行を通じての情報提供の仕方など検討していきたい。また、進路相談など随時行うことを継続し				

令和7年度学校教育自己診断（生徒用）			R7年度		R6	R5
			肯定率		肯定率	肯定率
17	体育祭、文化祭などの学校行事は楽しい。		84%	84%	79%	88%
	1年	昨年度より5％増えた。担任が協力して生徒たちと一緒に取り組んだ。				
	生指	学校行事が生徒にとって魅力的で安心して参加できる活動となっている。生徒が参加しやすいよう教員が計画し、運営できている。生徒の成功体験につながり、自己肯定感を高めることができている。				
18	ホームルーム活動（金4時限目）は必要だと思う。		76%	76%	78%	86%
	1年	ここ数年、HRの出席率が増えている。クラス活動が積極的に行われており、ホームルームは貴重な話し合いの場となっている。				
	2年	HR活動をもっと活発にさせたい。アンケートが多すぎると生徒からの声もある。				
	2年	自分のクラスの生徒がホームルーム受けずに帰ることが多かったことが、今年の反省点である。来年度以降より細かい指導をしていかなと思っています。				
19	外部（学校外）の講師による講演会は有意義だと思う。		81%	81%	77%	75%
	1年	授業では聞けない話が聞くことができ、学校生活や考え方に活かしている。				
	2年	学年として、肯定的な回答が多かったので、今後はもっと活用していきたい。				
	生徒支援	引き続き生徒に必要な講演内容を検討していく。				
20	学校生活について、先生の指導は理解できる。		83%	83%	92%	93%
	1年	昨年度より9％減ったが高い数値を保っている。教員が指導内容を丁寧に説明している。				
	2年	今後も理解に努めていきたい				
	3年	引き続き丁寧に説明し対応していく。				
	生指	教員が指導へ一貫性を持ちながら対応できている。生徒への丁寧な説明と個別対応の充実を行っていただいている。				
	生徒支援	引き続き丁寧に説明し対応していく。				
21	命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。		89%	89%	91%	93%
	1年	人権HRを定期的に行った。				
	2年	HR活動等を通して、積極的に行ってきた結果、98％が肯定してくれている。				
22	先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。		86%	86%	93%	92%
	1年	昨年度より7％減ったが高い数値を保っている。日頃の様子や面談、アンケートなどで情報を早くキャッチして対応した。				
	2年	普段から、距離感やかかわり方に課題がある生徒が多い中、年間を通して積極的に活動を行ってきた結果、学年として肯定的な				
	3年	いじめアンケートをもとに丁寧に聞き取り対応を行っている。				
	生指	「困ったときは必ず先生が対応してくれる」と生徒が実感している証拠であり、迅速で一貫した対応や日頃の見守り、教員との相談しやすい関係ができている。				
	生徒支援	教員間での情報共有を密にし、全体で対応していく。				
23	学校内で地震や火災が起こった時、どのような行動をすればよいか知らされている。		95%	95%	96%	97%
	1年	避難訓練を実施する前にHRで担任からしっかり話もした。				
	保健	避難訓練や防災HRを実施し高い数値を維持している。次のステップは「知る」ことから「行動できる」にシフトする必要がある。時間の経過とともに、大規模地震が発生する確率が上がってきているため、避難訓練が単発なものとならないよう、生活に密着した防災教育が必要であり、共助（支援者）として動ける生徒を育てることも今後の課題である。				
24	学校の部活動は、必要だと思う。		85%	85%	83%	90%
	1年	授業以外の学校の楽しみを見つけている。				
	生指	部活動が生徒の「居場所」や「自信の源」になっている				
25	学校には話を聞いてくれたり、気軽に相談できる先生がいる。		79%	79%	86%	81%
	1年	昨年度より7％減ったが高い数値を保っている。全教員で全生徒に関わっている結果と考える。				
	2年	他学年と比較して肯定的な数値が多かった。今後も定期的な声掛けを心掛けていく				
	3年	担任を中心に学年全体で生徒をサポートしていく。				
	生徒支援	SC、SSWなどの面談に適切につなげ、校内支援体制を充実していく。				
26	教室や体育館などの設備は、学校生活が送りやすいように整備されている。		80%	80%	89%	91%
	1年	昨年度より9％減ったが高い数値を保っている。登校前の日々の教室整備の結果と考える。				
27	HR教室や部活動の場所、保健室、図書室等、学校には自分の居場所がある。		83%	83%	84%	89%
	1年	いつも早く登校してHR教室でしゃべったり、部活動や生徒会などで活躍したり、行事でも積極的に参加してくれていた。				
	生徒支援	居場所カフェなどの取り組みを継続的に行っていきたい。				
28	学校は1人1台端末を効果的に活用している。		92%	92%	93%	90%
	1年	アンケートや総合探究での使用が大きい。				
	教務	授業及びアンケートでも端末を活用している。母数の変化による減少か。				
	情報処理	母数の変化による減少か。				
29	自分はいいさつをしている。		84%	84%	83%	87%
	1年	入学当初よりあいさつの大切さを伝えた結果と考える。ここ数年はあいさつを返してくれる生徒が増えている。				
	生指	あいさつがこれまでにできている生徒が多くなってきていることと登下校時に教員が声かけを行っていることを続けてきたため、学校の雰囲気としてあいさつが当たり前になってきている。				
30	学校に対して要望、伝えたいことがある人はここに記入してください。					